

ほぼ全工事に適用

実06年度「逆転」第一部会9.3%

整備局、総合評価方式を拡大

中部地方整備局総合評価審査委員会と同第一・第二部会は28日、名古屋市中区のKKRホテル名古屋で2007年度第1回会合を開いた。委員会は、07年度から全工事（港湾空港関係は9000万円以上）で総合評価方式を実施し、標準型の適用を、従来未滿に拡大する方針を確認した。同局は07年度に件数ベースで98.4%、金額ベースで99.0%で総合評価方式を実施する方針だ。

うにするなど、実質的な審査の質を高めるよう求めた。
07年度は、第一部会の対象案件となる全3115件中、件数ベースで99%

港湾空港関係の総合評価を審査する第二部会では、06年度に標準型12件、簡易型31件の計43件で総合評価を行った。実施率は件数ベースで52.4%、金額ベースで86.6%と

なった。「逆転落札」は、標準型1件、簡易型2件の計3件発生し、発生率は7.0%となっている。
07年度は、件数ベースで78.5%（金額ベースで98.1%）に当たる51件で総合評価を実施する見通しだ。

06年度は、全入札件数1300件の73件では「逆転落札」は1382件に対し、件数割合に当たる913件で総ベースで69.2%に当たった。また、事務所発注（分任官）の総合評価方式案件を抽出し審査するた高度技術提案型が3件、価格以外で落札者が決まる「逆転落札」が発生し、地域部会から、審査対象（WTO・世界貿易機関）が26件、一般競争（拡大）率は、05年度比で0.2%高まった。
06年度は、分任官の総合評価案件全800件程度のうち約5割を抽出し、審査したものの、07年度は、対象案件が1200件程度に増え、抽出率が低下することが考えら

港湾空港関係を除く総合評価方式を審査する第一部会では、06年度の全